

# 「戦争容認」の姿勢を持ち込む森田知事

8年間の森田県政のなかで最大の問題の一つは、「戦争容認」の姿勢を千葉県に持ち込んでいること。その影響が最も色濃く出てきているのが子どもたちへの教育です。

## 県立中学校に「育鵬社」版の教科書

千葉県には県立中学校が2校（千葉中学校と東葛飾中学校）あります。県教育委員会はこちらで使う日本史の教科書に「育鵬社」版を選定しました。「育鵬社」は71年前の戦争は「正義の戦争だった」という立場に立っている教科

書会社で、歴史の事実とも、憲法の立場とも違います。もちろん世界にも通用しません。

## 県立高校では週1回の道徳の授業

県立高校では、週1回の道徳の授業が行われていますが、これを実施しているのは茨城県と千葉県だけです。問題なのは、森田知事が子どもたちに教えるようとしている価値観が「武士道精神」だということです。知事は4年前に書いた自らの

## 森田健作著 「青春の力 限りなき挑戦」より (2012年11月PHP研究社発行)

「知事就任後は毎年の終戦記念日の早朝にかかさず靖国神社に参拝している。日本人として当たり前のことだ。総理大臣や閣僚は堂々と靖国神社に参拝すべきだ」

「『靖国で待っている』という言葉で軽んじる政治家に国のかじ取りはできない」

「どんなにきれいごとを言おうと、現実の国際社会の平和は力の均衡の上に成り立っている。殴られたら殴り返すという気概を持たない国は平和を保てない」

「先人が築き大切にしてきた価値観をしっかり伝えたい。それは武士道精神で、日本をここまで立派な国にしてくれたのは武士道精神にもとづく価値観だった。戦後の教育は個性重視に傾きすぎ、公德心の育成を軽んじてきた」

た自らの著作のなかで「日本をここまで立派な国にしたのは武士道精神にもとづく価値観だった」と、あけすけに語っています（上記参照）。

## 森田知事は毎年靖国神社に参拝

こうした背景に森田知事の「戦争容認」の姿勢があります。森田知事は終戦記念日に毎年、靖国神社に参拝しています。しかも「総理大臣や閣僚は堂々と靖国神社に参拝すべき」と奨励までしています。しかし「靖国神社」は、「神

## 船橋市内の小学校で一時的に学級統合 教員不足で50人を超えるクラスに

船橋市内の市立小学校で、1月末、教員不足により3年生の3学級を2学級に統合したため、1クラス50人を超える事態となりました。この学校では、昨年来、病

社」となっていますが、戦前は戦争推進施設でした。陸軍が財政を支え、陸軍と海軍が共同で運営し、内務省が人事を管理していた文字通り国家と軍による施設です。「死んでも靖国神社に神様としてまつられる。これほど名誉なことはない」と若者たちを戦争に駆り立てる精神的な支柱の役割を果たしていました。戦後は、宗教学法人に形は変わりましたが、内容は変わらず、1978年にはA級戦犯でも靖国神社に神様としてまつられる。これほど名誉なことはない」と若者たちを戦争に駆り立てる精神的な支柱の役割を果たしていました。戦後は、宗教学法人に形は変わりましたが、内容は変わらず、1978年にはA級戦犯でも靖国神社に神様としてまつられる。これほど名誉なことはない」と若者たちを戦争に駆り立てる精神的な支柱の役割を果たしていました。